

稲門フィラテリー 第89号

2023年9月1日発行

<http://post-stamp.org/wasephila.html>

IBRA を参観して

和田文明

ドイツエッセン市のコンベンションセンターメッセで開催される国際切手展 IBRA 2023 の参観を兼ねて、5月21日から29日まで、北欧のフィンランドのヘルシンキ、スウェーデンのマルメ、デンマークのコペンハーゲン、オランダのアムステルダム、ドイツのエッセンといった5カ国5都市を周って来ました。

今回エッセン(ドイツ)で開催された FIP の国際切手展 IBRA 2023 は、本来は2021年に開催が予定されていましたが、COVID-19(コロナウイルス)のパンデミック禍により、2年延期され今年開催されたものです。日本の国際切手展 PHILANIPPON 2021 が郵便創業 150 年記念を兼ねていたため、予定通り 2021 年の 8 月に開催されましたが、FIP 展(国際展)から FIAP 展(アジア展)に変更されて、その規模が縮小されてしまい外国からの出品と参観はほとんど見られなかったのはご承知通りです。

日本で例えると名古屋の近郊の岡崎市のようなドイツの一地方都市での開催ながら、国内、国外から多くの参観者を集め大成功であったようです。私は 5 月 26



写真1 IBRA 2023 の展示会場

日(金)の夕方と 5 月 27 日(土)を IBRA 2023 の参観に充てました。今回は私のコレクションの出品は行わず参観のみです。国際展の出品料や出品コストなどの高騰により、PHILANIPPON2021 以降は“出品”は行わず“参観”に徹しています。

IBRA 2023 の特別なハイライトとして会期中の 5 月 26 日(木)に開催された RDP(著名切手収集家名簿)式典が開催され、新たに 6 名のフィラリストが署名しました。稲門フィラテリーの金井先輩も 30 年前の 1993 年に署名されたもので、会場には歴代の RDP(著名切手収集家名簿)が展示されていました(写真 2)。

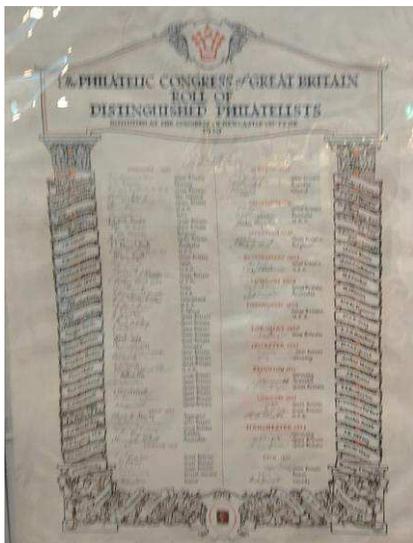


写真3 IBRA 2023の文献部門エリア

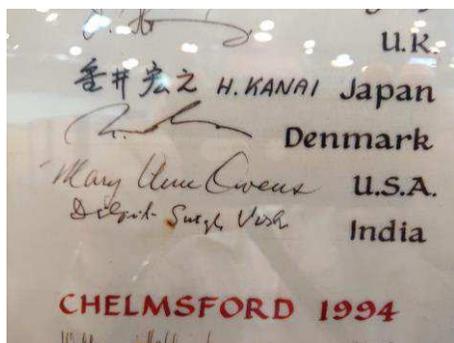


写真2 RDP(著名切手収集家名簿)と
1993年の金井宏之氏の署名



写真4 伊藤文久氏のドイツインフレ
コレクション(金賞)

会期中には、数多くの講演やプレゼンテーションが行われ、幅広い切手など郵趣(Philately)に関する話題が取り上げられていたようです。また、文献部門に関しては、広いエリアが確保され、十分なテーブルと椅子が用意されていて、休憩を兼ねてゆっくりと文献類を閲覧することができました(写真3)。

コレクションの展示では、ドイツやヨーロッパのクラシックや郵便史の作品を参観できた他、ドイツのインフレ関連の

コレクションやホローコーストや第3帝国関連のコレクション、ツェッペリン航空郵便のコレクションなどを参観することができました。ドイツのインフレ関連のコレクションには日本から伊藤文久氏のコレクション(写真4)が、ホローコースト関連のコレクションには日本から内藤陽介氏のコレクションが出品されていました。

IBRA 2023は、おそらく過去10年間でヨーロッパにおいて開催された最大級

の切手イベントでしたが、3,000 フレームを超える大規模な国際切手展の割に、会期は僅か 4 日間と短く、沢山のセミナーやもり沢山のイベントや各種パーティの合間に参観するには短すぎたようです。IBRA 2023 ではフレームのセットアップや展示物の取り付け、その他多くの作業に 100 人を超える多くのボランティアが参加されたとのことです。

IBRA 2023 のハイライトは、メッセ・エッセンの西エリアにあるザール・ヨーロッパで開催されたパルマレスの夜で(写真 5)、今回は参加できませんでしたが、2019 年 5 月にスウェーデンのストックホルムで開催された FEPA ヨーロッパ国際切手展には出品をしていないもののパーティに参加することができ、ヨーロッパの国際切手展のパルマレスパーティの素晴らしを知っていただけに、今回参加できず残念でした。



写真 5 IBRA 2023 のパルマレスの夜会場

FEPA(ヨーロッパ郵趣連盟)の会報『FEPA NEWS』43 号(2023 年 7 月刊)の IBRA 2023 のレポートは以下の通りです。「ヨーロッパヨーロッパ約 600 名のゲスト

が本当に素晴らしいディナーとショープログラムを楽しむことができました。賞賛に値するものの中には、素晴らしい 3 コース料理と、さまざまなジェームズ ボンド映画の歌でゲストを楽しませた「レディ ボンド」のパフォーマンスが含まれます。ラージゴールドメダルの受賞者全員がステージに招かれ、最後に 3 つのグランプリの勝者が発表され、表彰されました」

IBRA 2023 のグランプリは次のとおりです。

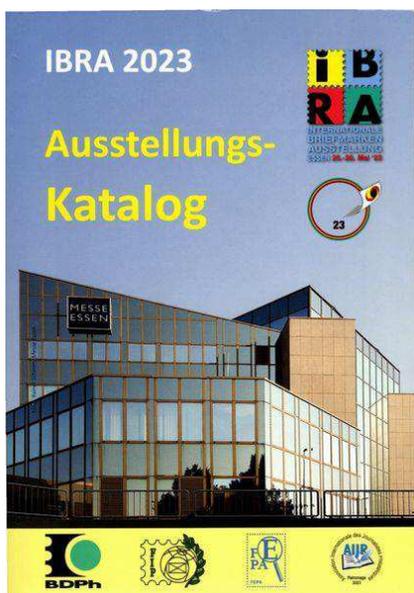
- **Grand Prix National:** Alfred Schmidt, Prussia - The first Three Issues 1850-59
(全国グランプリ: アルフレッド・シュミット、プロイセン - 最初の 3 号 1850 ~ 1859 年)
- **Grand Prix International:** Julio Cesar Ponze Lozada, The Mail System in the Viceroyalty of Peru
(グランプリ・インターナショナル: Julio Cesar Ponze Lozada、ペルー副王領の郵便システム)
- **Grand Prix D' Honneur:** Walter Britz, Uruguay: Early Issues of the XIX Century (1856-1862)
(グランプリ・ドヌール: ウォルター・ブリッツ、ウルグアイ: XIX 世紀初期の問題 (1856-1862))

IBRA 2023 公式カタログ

国際切手展 IBRA 2023 の公式カタログ(オールカラー、全 264 頁)は、会場でも

購入することができるのですが、参観を前に IBRA 2023 の全体を知っておくため、事前にカタログに目を通しておきたいと思い、送料として 5 ユーロを別途負担して、カタログ代金と合わせて 15 ユーロを IBRA 2023 のオンラインショップを通じて購入しました。おまけに、ドイツの記念カードが 4 枚程添えられていました。15 ユーロの代金の支払いは、ドイツやヨーロッパで人気のオンライン支払い方法で

あるアメリカベースの代替オンラインペイメントサービスの Pay Pal で支払いました。アジアの国際切手展では、会期の終盤になって漸く発行されることも多々ありましたが、ドイツの IBRA 2023 は、参観者へ事前に配布が可能にする対応を取られていました。2019 年 5 月に開催されたストックホルム国際切手展では 3 分冊の数キロもの重量の巨大なカタログが刊行され、参観後の移動の際の負荷を減らすため、今回と同様、事前購入をしましたが、事務局もそれを勧めていました。(写真 6)



明治セール

国際切手展 IBRA 2023 の切手商ブースには、6 月 3 日にスイスのジュネーブと日本の東京で同時開催された明治セールのオークションハウスであるデビット・フェルドマンのブースも出店されていました(写真 7)。およそ 6 億円で落札された龍 500 文逆刷り切手が出品された明治セールのオークションカタログや 500 文逆刷り切手解説本を頂いてきました(写真 8)。



写真 6 IBRA 2023 の公式カタログと
カタログが同封されていた郵便カバー



写真 7 デビット・フェルドマンのブース

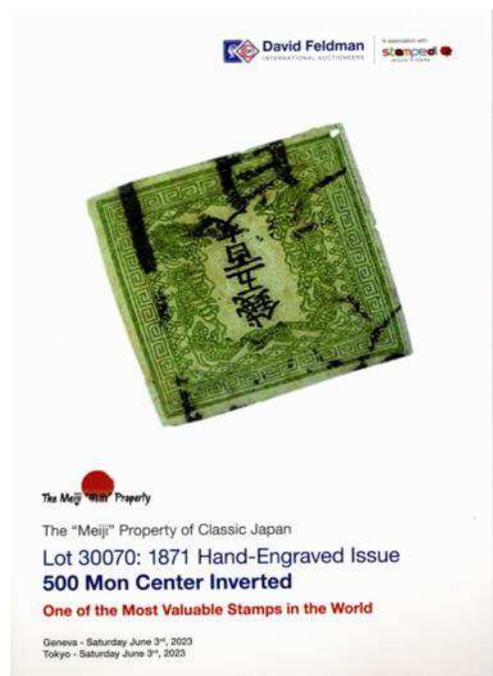
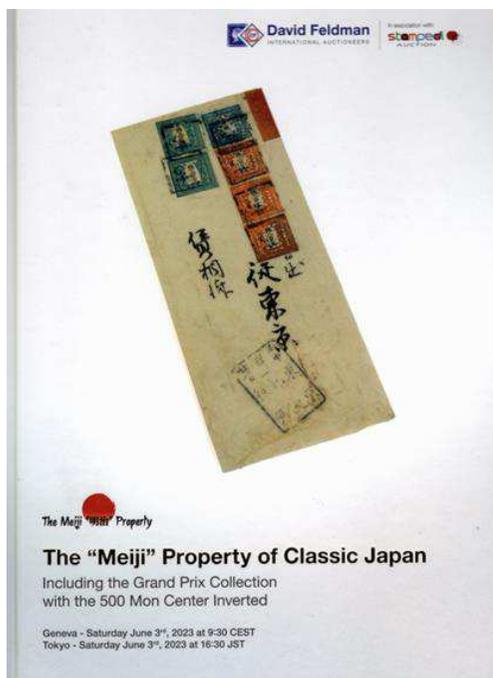


写真 8 明治セールのオークションカタログ
と 500 文逆刷り切手解説本

ドイツポスト

今回の国際切手展 IBRA 2023 の後援を務めたドイツポストのエッセン郵便局がエッセン中央駅前の泊まったホテルの前にありました(写真 9)。エッセン郵便局とは別に、エッセン中央駅の反対側にドイツポストバンクの高層ビルが建っていました。エッセン市ドイツポストやドイツポストバンクの拠点の一つのようです(写真 10)。



写真 9 ドイツポストの入口



写真 10 ドイツポストバンクの高層ビル

早大野球部・吉江英四郎の人生

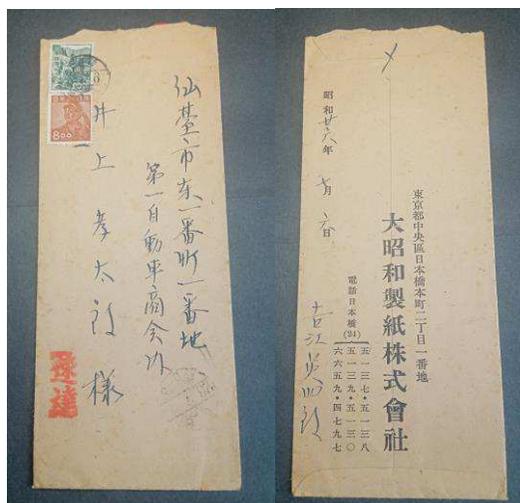
井上武志

父親が生前、私が切手を集めていることを知っていて、父あての戦後のエンターを一通渡してくれた。大昭和製紙の「吉江英四郎」氏が差出人であった。たわいもないお礼状である。

当時、NET もない時代（昭和終わりころ）で、銀行員として担当している会社に大昭和製紙があったので、経理課長に、「吉江英四郎さんを知りませんか」と聞いてみた。「吉江はまだ当社におり、バンクーバーの支店長です」と、驚くべき返事が帰ってきた。丸顔で頭髪のない経理課長にお礼を言い、帰社すると、部下が「大昭和の課長は、興国の丸山ですよ」と教えてくれ、またまた驚いた（丸山朗氏は、1968年、夏の甲子園の優勝投手。三沢の太田投手が人気になる前年のヒーロー。大阪府興国高校出身）。

丸山さんはその後早稲田に進学しており、私と同年に卒業した同期生であったが、頭髪が全くなくなっており、日本中の女子高生のアイドルの面影はなかった。東京六大学野球でも活躍した記憶はないが、大昭和製紙の野球部には在籍したそう。丸山さんは、なんと、吉江英四郎氏は、早稲田の先輩だと言っている。このときから、吉江氏の足跡を調べ始めたが、30年の年月がかかってしまった。

吉江英四郎（1922～1986）氏の経歴についてわかっていることを記しておく。



吉江英四郎氏差出の手紙

- ① 昭和 25 年に巨人に入り、投手として 2 勝をあげていた（前年に東急から移籍）。
- ② 巨人退団後、実業団の大昭和製紙に入り、昭和 28 年に都市対抗野球大会で優勝、黒獅子旗を手にしていた。
- ③ 昭和 18 年のいわゆる「最後の早慶戦」にベンチ入りして、戸塚球場で学徒出陣する先輩方を壮行していた。
- ④ 仙台一中（現仙台一高）が二度目の甲子園出場をはたした昭和 15 年の全国中等学校優勝野球大会（第 26 大会）では、投手として、1 回戦で千葉商に敗退していた。
- ⑤ 現在まで、仙台一中一高の卒業生でプロ野球選手になったのは 吉江氏ただ一人であった。

輝かしい野球人生である。

そもそも、吉江氏は、バンクーバー生まれであった。父吉江三郎は、当時はバンクーバー領事館の書記生であった。バンクーバーで吉江三郎と結婚した吉江うんは、新田次郎著「密航船水安丸」のモデルとなった人で、明治 39 年に帆船水安丸で石巻からカナダに密航した 82 人の一人であった。日米関係が悪化した昭和 10 年、妻吉江うんは吉江三郎と離婚して 4 人の子ども連れ、故郷仙台に帰国している。帰国子女の英四郎は、このあと仙台一中に合格し、野球部に入った。

大昭和製紙（現在は日本製紙に吸収）は、静岡県富士市の紙パルプメーカーであったが、斉藤了英（故人）という傑物の社長がいた。吉江氏はこの斉藤社長に可愛がられた。64 才で亡くなるまで、幸せなことに、生まれ故郷バンクーバーの支店長であった。

仙台一高の古い卒業生で、吉江英四郎を知らない人はいない。吉江氏を語る人は少ないが、間違いなく「郷土の英雄」であった。（了）

【編集注記】

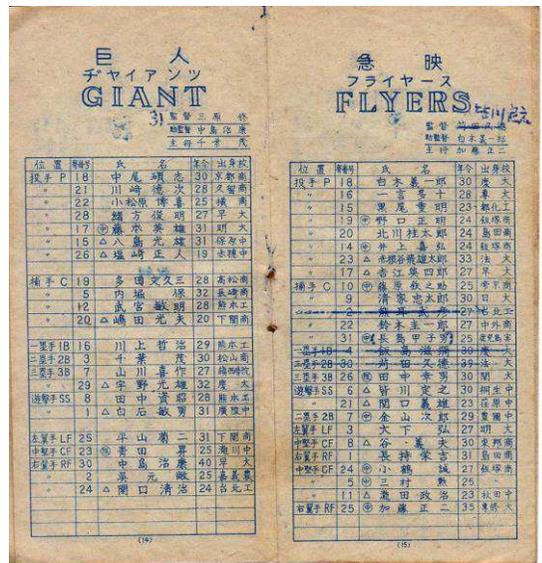
本原稿を磯野会員に見てもらったところ、吉江選手について新たな情報をいただくことができた。記録の意味でここにそのメールを転載させていただく。この場を借りて、磯野会員に感謝申し上げます。

2023/06/21 23:18 磯野会員メール

吉江投手は早稲田大学でも急映フライヤーズ・東急フライヤーズでも活躍したようです。私の記憶はほとんどありませんが、かすかに名前はおぼろげながら残っています。当時、後楽園球場で買ったメンバー表ファン手帖が手元にあったので添付します。

昨日訃報ニュースで知らされた名投手杉下も同時期に後楽園で活躍していました。吉江が東急フライヤーズで活躍していたころ、練習場は多摩川河川敷でした。私は自由が丘に住んでいたのでよく見に行っていました。私は小学生でした。たぶん吉江選手を見ていたと思います。大昭和の野球も後楽園によく見に行っていました。

当時大昭和の応援団は早稲田大学応援部がアルバイトで務めていました。



日本野球大リーグ戦メンバー表(1948) 右の急映フライヤーズのリスト内、背番号 17 番に吉江選手の名前が見える。(資料提供：磯野昭彦)

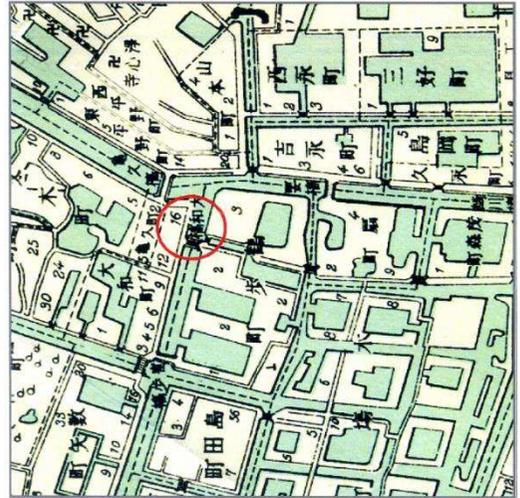
明治の東京・深川ぶらり散歩（6）

鎌倉達敏

17. 深川大和橋局のぶらり散歩と郵便印



現在の地名：江東区冬木



所在地：深川区亀久町

10 局目は、深川大和橋局のぶらり散歩です。深川大和橋局の局歴は、下枠の記述とおりですが、明治 35 年 11 月 16 日に郵便受取所として開設されます。

深川大和橋局 ・明治35.11.16 郵便受取所として設置 ・明治38.4.1 三等無集局に改定
--

葛西橋通りの大和橋際のエリア。現在付近に郵便局はない。木場貯木場の中心地

現在の周辺写真 撮影方向上図→方向

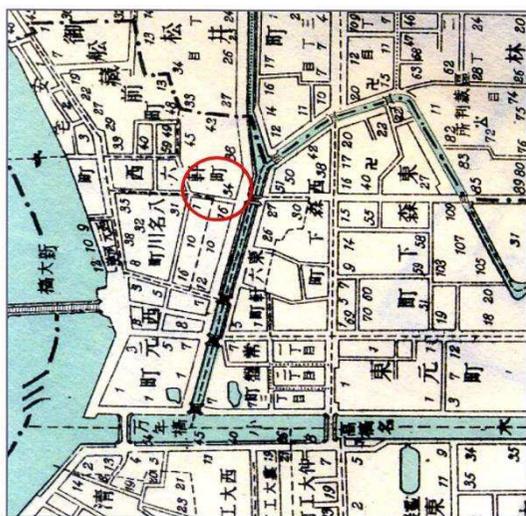


であった場所。木場が新木場へ移転した跡地には木場公園がある。木場の木遣（きやり）は、江戸時代から続く、木場の労働歌。江東区登録無形文化財。



木場の木遣 ゆうぱーん H2-24

18. 深川西六間堀局のぶらり散歩と郵便印



深川西六間堀局	
・明治36.12.21	郵便受取所として設置 設置名 深川安宅町
・明治38.4.1	三等無集局に改定
・明治43.7.18	深川西六間堀と移転改称
・昭和9.6.15	深川新大橋と改称
・昭和20.4.30	廃止

11 局目は、深川西六間堀局のぶらり散歩です。局歴は、下枠の記述とおりですが、「深川安宅町」郵便受取所として明治36年12月21日に開設されています。

現在の新大橋通り、新大橋東詰辺りに在りました。新大橋は明治45年に現位置に移転設置されました。昭和に入り、深川

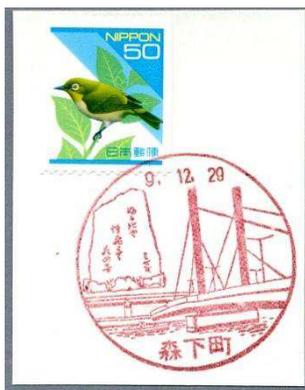


現在の地名：江東区新大橋3

現在の周辺写真 撮影方向 上図 → 方向



新大橋局と改称され、昭和20年4月30日に、戦災により廃局になっています。西六間堀は、元々は「北深川」局発祥の地です。

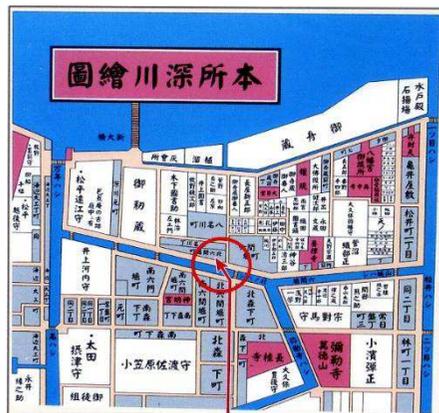


風景印：新大橋と芭蕉句碑



深川新大橋局
昭和12.10.1

西六間堀は堅川と小名木川を結ぶ重要水路。後に埋め立てられた。



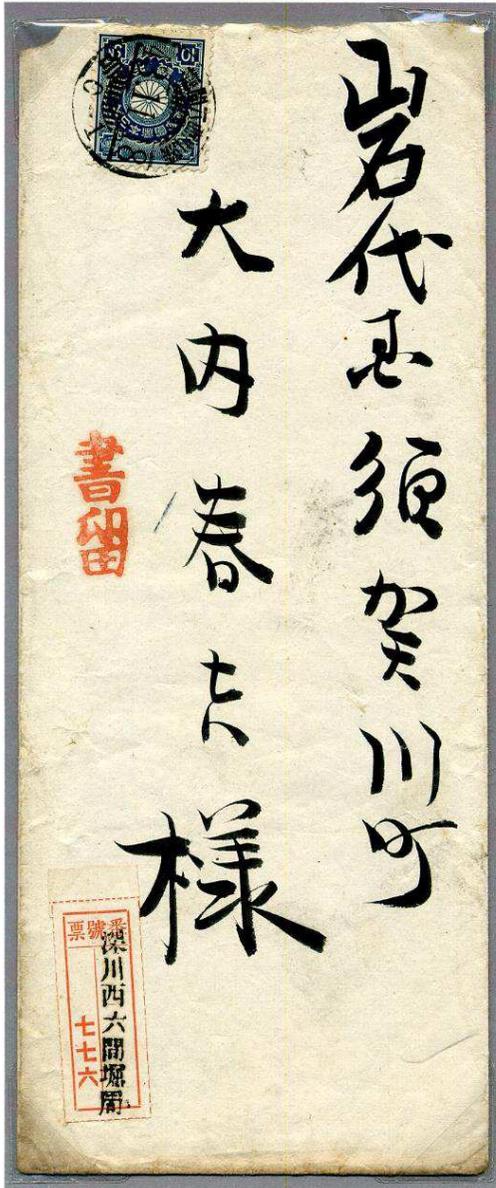
深川西六間堀局の郵便印使用例を紹介します。深川西六間堀局は、明治43年7月18日、前身の深川安宅町局が、移転改称したもの。左下は移転改称して4か月

後の43年11月18日の櫛型日付印（D欄星入り）の書留便。右下は42年7月7日、東京深川安宅町局時代の丸一印使用例です。

深川西六間堀局

明治43.7.18

三等無集郵便局



櫛型日付印（D欄星入り）
深川西六間堀
明治43年11月18日 后0-1



縦型番号票
（深川西六間堀局）

深川六間堀局は、明治43年7月18日、前身の「深川安宅町」局が移転改称したもの。深川安宅町局は、明治36年12月21日、郵便受取所として開設され、明治38年4月1日、三等無集局へ名称・制度変更になっている。郵便使用例としては、未入手であるが、切手上的の丸一型日付印を下記に示す。

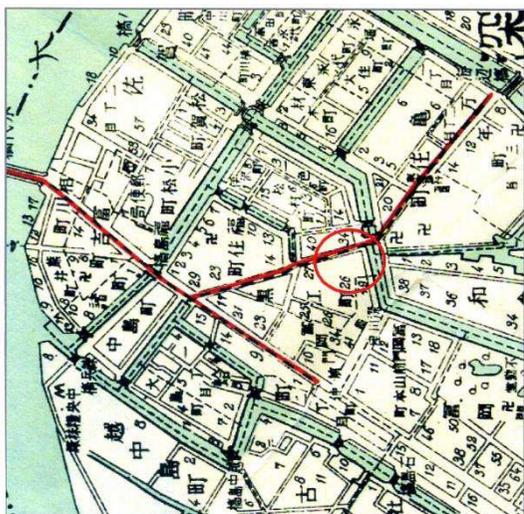
深川安宅町 三等無集郵便局



東京・深川安宅町 明治42年7月7日

深川西六間堀 明治43年11月18日
菊10銭(にぶ青)貼り書留便
(1種便3銭+書留7銭:合計10銭)

19. 深川黒江町局のぶらり散歩と郵便印



所在地：深川区黒江町

12 局目は、深川黒江町局のぶらり散歩です。局歴は、下枠の記述とおりですが、明治 37 年 12 月 21 日に郵便受取所として開設されます。

<p>深川黒江町局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治37.12.21 郵便受取所として設置 ・明治38.4.1 三等無集局に改定 ・明治44.12.1 深川福住町と移転改称

葛西橋通りと首都高が空中でクロスする門前仲町駅に近いエリア。明治 39 年当時、東京の市電が永代橋を渡り、福住町で曲がり、亀住町まで伸びていた。（上地図で赤線）

付近に、現在郵便局はないが、道路沿いに、伊能忠敬の住居跡の石碑が設置



現在の地名：江東区門前仲町1

現在の周辺写真 撮影方向 上図⇒方向



されている。寛永 7 年 (1795) 51 歳の時、長男景敬に家業を譲り、深川黒江町 46 番地に住み、浅草竹町にある天文方暦局の高橋至時に天文学や数学を学んだ。

1995 年 11 月 6 日、第 2 次文化人切手の第 4 集で地理学者として切手が出ている。



深川黒江町局の郵便印使用例を紹介しま
す。三等局時期の書留便、書留番号票
(縦型)です。丸一型日付印、便号空欄
です。「武蔵 深川黒江町」の表示になっ

ており、「武蔵」表示は何故か、深川黒
江町と深川高橋のみで、他の深川局管内
の三等局の丸一印は「東京」表示が基本
です。

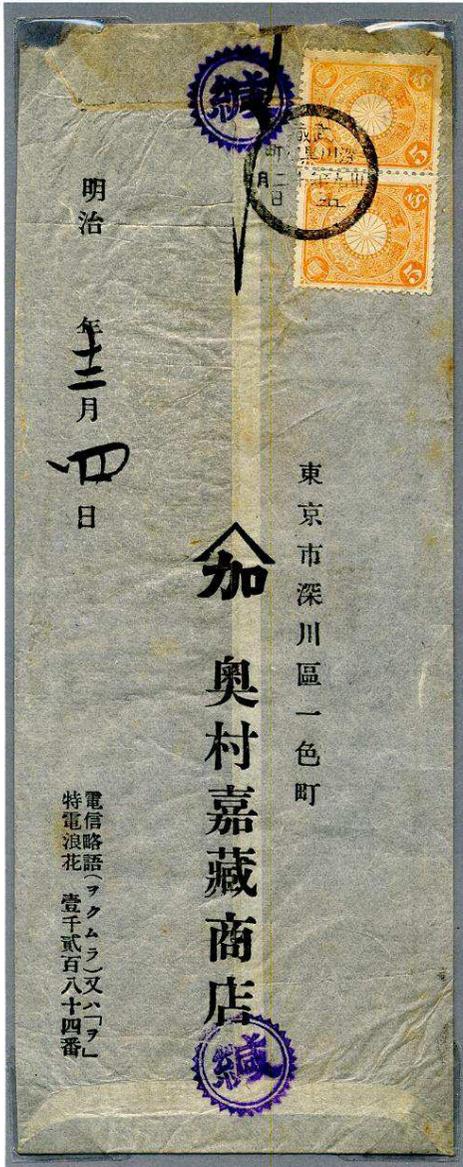
深川黒江町局

明治38.4.1~

武蔵 深川黒江町 丸一型日付印

三等無集郵便局

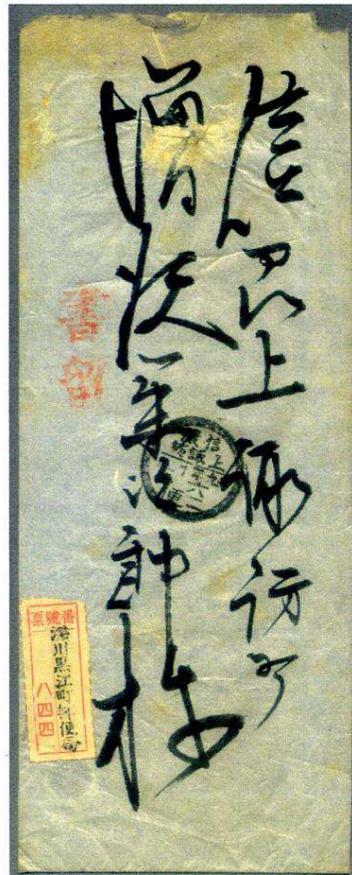
書留番号票



丸一型日付印
武蔵 深川黒江町

他の深川局管内の三等無集郵便局の丸一印は「東京」表示が基本であるが、深川黒江町と深川高橋のみ「武蔵」表示である。

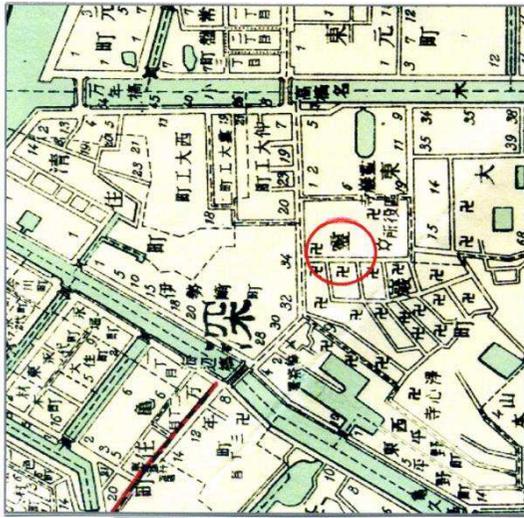
縦型番号票 (深川黒江町郵便局)



武蔵 深川黒江町 明治39年12月5日
→信濃・上諏訪 39年12月6日二便
菊5銭(黄だいたい)2枚貼り書留便
(1種便3銭+書留7銭:合計10銭)

(裏面 縮小60%)

20. 深川霊巖町局のぶらり散歩と郵便印



所在地：深川区霊巖町

本連載、最終 13 局目は、深川霊巖町局のぶらり散歩です。局歴は、下枠の記述とおりですが、明治 42 年 6 月 11 日に三等無集局として開設されました。

深川霊巖町局	
・明治42.6.11	三等無集局として設置
・大正7.6.26	深川元加賀町へ移転改称

霊巖寺の周辺は、旧深川区役所、後に旧江東区役所があったエリア。現在は跡地に深川江戸資料館が建てられている。深川霊巖町局はこの通りにあったと考えられる。

大正期に、少し離れた、深川元加賀町



現在の周辺写真 撮影方向 上図→方向



現在の地名：江東区白河1

深川江戸資料館



(現白河 4) へ移転改称し、現在は江東白河局になっている。

深川江戸資料館開館記念小型印 61.11.16



深川靈巖町局の郵便印使用例を紹介しま
す。深川靈巖町局の開局は明治42年6月
11日、櫛型日付印の使用開始は明治43年
1月1日。約半年間、丸一印が使用されて
いる。エンタイヤとして未入手ですが、

右下に切手単片上の印影（明治42年12
月24日）を示します。左は明治44年3
月13日の櫛型日付印（D欄星入り）の書
留便。書留番号票は（縦型）です。

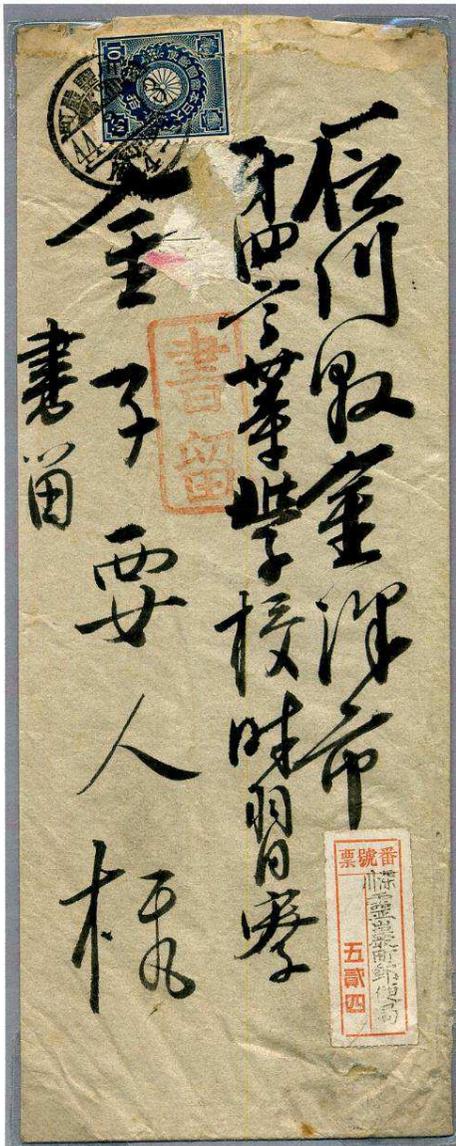
深川靈巖町局

明治42.6.11~

深川靈巖町 櫛型日付印(D欄星)

三等無集郵便局

東京・深川靈巖町 丸一型日付印



深川靈巖町 明治44年3月13日 后4-5
菊10銭(にぶ青)貼り書留便
(1種便3銭+書留7銭:合計10銭)



縦型番号票
(深川靈巖町郵便局)

深川靈巖町局は、明治42年6月11日設置開
局。明治43年1月1日より、櫛型日付印が使
用されているので、丸一型日付印の使用期間
は、約半年間だけである。エンタイヤとして
は、未入手であるが、切手上の丸一型日付印
を下記に参考のため示す。

東京・深川靈巖町
三等無集郵便局



東京・深川靈巖町
明治42年12月24日
丸一型日付印

小館善四郎と太宰治

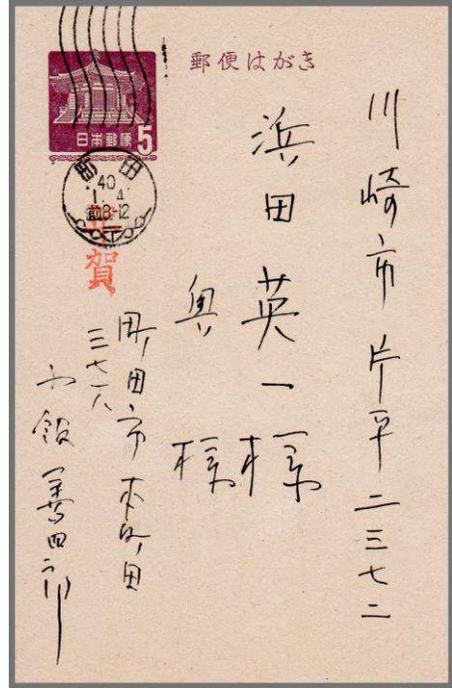
池澤克就

最近、一通の年賀はがきを入手した。レモンをテーマとした静物画を得意とした、青森出身の画家、小館善四郎の差し出したものである。調べてみると、小館善四郎は文豪・太宰治の人生に大きな影響を与えた人物であることがわかったので、ここでまとめておきたい。

小館善四郎は1914(大正3)年11月29日、青森県青森市に生まれた。同郷の作家・太宰治には四人の姉がいたが、四姉きやうが嫁いだのが小館貞一、その弟が小館善四郎であった。すなわち、善四郎は太宰治の義弟にあたる。太宰は1909(明治42)年生まれであるから、善四郎が5歳ほど年下ということになる。

太宰と善四郎との交流は、姉が小館家に嫁いだ1932(昭和3)年6月に始まっている。当時弘前高校に通っていた太宰は善四郎を実の弟のように可愛がっていたという。1935(昭和10)年に発表された太宰の短篇『道化の華』には、小館善四郎がモデルと思われる法学生“小菅”が登場する。

小学生のころから油彩をはじめた善四郎は、青森中学を卒業後上京して牧野虎雄に師事。帝国美術学校(現・武蔵野美術大学)に入学し画家を目指した。上京後は、東京で家庭をもっていた太宰と太宰の最初の妻・小山初代との交流が続いた。善四郎は、太宰のことを「おどちゃ」、初代のことを「はこちゃ」と呼び、太宰夫婦は善四郎を「しろしゃ」と呼んで、兄弟同士が隔てなく付き合っていたという。



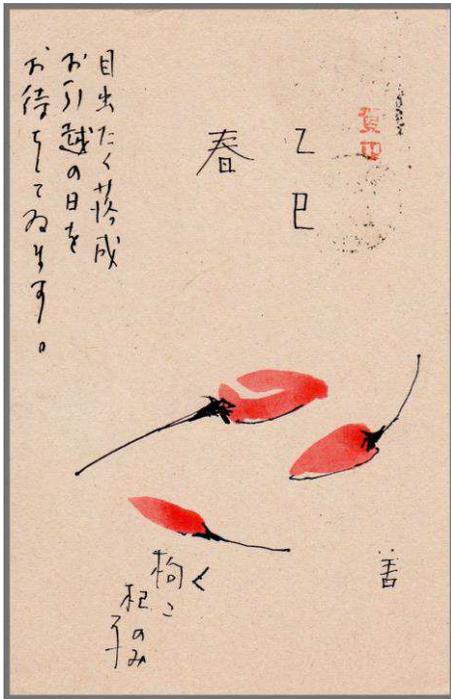
小館善四郎差出のはがき

昭和40年1月4日 画家 浜田英一宛

そんな小館と太宰の関係は、初代と小館の過ちから大きく崩れてゆくことになる。1936(昭和11)年10月、善四郎は自殺未遂を起こして入院。同じ頃、太宰もパピナル中毒の療養のために武蔵野病院に入院しており、初代はしばしば太宰のもとに面会に訪れたが、閉鎖病棟に収容されていた太宰とはなかなか面会ができなかった。



小館善四郎
(昭和10年)



小館善四郎はがき(裏面)

そのうちに別の病院に入院していた善四郎を見舞う中で初代と善四郎は懇意になり、ついに過ちを犯してしまう。小館は初代に固く口留めをした。

太宰は退院後、同年 11 月 29 日に、青森の浅虫に戻っていた小館宛の手紙に次のような文句をしたためた。

「寝間の窓から、羅馬ローマの燃上を凝視して、ネロは、黙した。一切の表情の放棄である。美妓の巧笑に接して、だまっていた。緑酒を捧持されて、ぼんやりしていた。かのアルプス山頂、旗焼くけむりの陰なる大敗将の沈黙の胸を思うよ。

一嚙ひとかみの歯には、一嚙ひとかみの歯を。一杯のミルクには、一杯のミルク。(誰のせいでもない。)」

これを読んだ善四郎は、初代が二人の秘

密を太宰に漏らしてしまったのだと勘違いしてしまう。1937(昭和 12)年3月初旬、帝国美術学校に卒業作品を提出するために上京し太宰宅に立ち寄った善四郎は、初代の手料理でもてなしを受け、手洗いで太宰治と一緒にになった時に二人並んで用をたしながら、思わず初代との過失を打ち明けてしまった。太宰は一瞬険しい表情になったが、平静を装って酒席の座に戻り、善四郎が帰ったあと初代に訊問して遂に過失を告白させた。

不貞の事実が明らかになって太宰は強い怒りを覚え、初代もまた精神的な打撃を受け憔悴。二人は谷川温泉で心中を企てるが未遂に終わり、東京に戻った後、1937 年 6 月、離婚が成立して初代は故郷の青森に戻った。後に、太宰は谷川温泉の心中未遂の経緯をモデルにした小説『姥捨』を執筆している。

この二年後、太宰は井伏鱒二の紹介で石原美智子と結婚、以降しばらくは安定した作家生活を送ることになった。善四郎はその後生前の太宰と直接会うことはなく、太宰が没してからも長くその墓を訪れることはなかったという。善四郎が初めて太宰の墓を参拝したのは、太宰が没して 50 年後にあたる 1998(平成 10)年、美智子夫人の一周忌の折であった。

手元にある小館善四郎の年賀状は、同郷の画家である浜田英一に宛てたもので、シンプルな筆致で三つのクコの实が描かれている。差し出されたのは太宰治が没して 17 年後の 1965(昭和 40)年であるが、文豪の人生に少なからぬ影響を及ぼした人物の筆致だと思えば、亡き旧友との親密な交流や決裂について、当時どのような思いで絵筆をとっていたのか、興味はつきない。

悪趣味をコラボする (切手と厠) 5.

2つ DATABASE で

KEYWORD 「洛中洛外図屏風」「ダウ船」で検索

最後になったなと思って DATABASE をいじっていたら2つの KEYWORD 「洛中洛外図屏風」、「ダウ船」がヒットしてきた。まだ有りそうなので恥ずかしながら続編としたい。

を探せどその香を聞くこともできない。せめて検索作業で判別可能な画像を得られた山鉾巡業の部分から当時の生活の様子を感じたい。

洛中洛外図屏風

京都の景観、風俗を16世紀から江戸時代にかけて描いた屏風絵は数多くあり2点が国宝、5点が重文になっている(表1)。2点の国宝はカットの扱いがかなり異なるが切手になった。上杉本は2016年切手趣味週間では広範囲が10種の切手になったが、あまりにも細かくなってしまい、御所、南禅寺等、神社仏閣の建物は判別できるが当時の生活を感じられるのは祇園祭の山鉾巡業ぐらいで厠

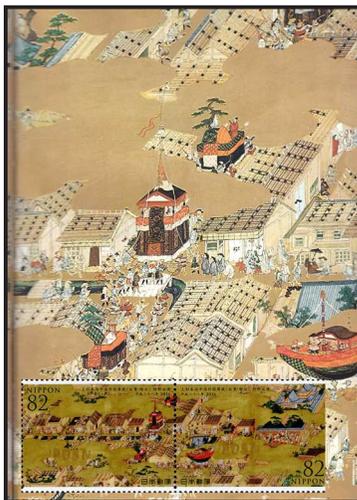


図2. 上杉本に描かれた山鉾

表1. 国宝・重要文化財に指定された洛中洛外図

名称	所蔵	形式	備考
舟木本	東京国立博物館	屏風六曲一双 紙本金地著色	国宝 切手あり
上杉本	米沢市上杉博物館	屏風六曲一双 紙本金地着色	国宝 切手あり
勝興寺本	富山県高岡市 勝興寺	屏風六曲一双 紙本金地著色	重要文化財
池田本	林原美術館	屏風六曲一双 紙本金地着色	重要文化財
福岡市博物館本	福岡市博物館	屏風六曲一双 紙本金地着色	重要文化財
歴博甲本	国立歴史民俗博物館	屏風六曲一双 紙本着色	重要文化財
歴博乙本	国立歴史民俗博物館	屏風六曲一双 紙本金地着色	重要文化財



図1. 上杉本洛中洛外図屏風と2016年切手趣味週間切手10種



図 2. 舟木本洛中洛外図屏風右隻部分と国宝シリーズ第 3 集東京国立博物館 150 年切手 2 種の位置



図 3. 2022 年発行国宝シリーズ第 3 集・東京国立博物館 150 年切手 2 種
舟木本洛中洛外図屏風に描かれた方広寺

2023 年国宝シリーズで発行された切手 2 種の舟木本洛中洛外図屏風に描かれた方広寺は今では知られていないが現在の京都国立博物館の敷地の北に位置する天台宗の寺院。なぜ、屏風にこれほどまでに大きく扱われたかというのと京の大仏で当時の観光名所であったからという。この大仏、豊臣秀吉により 1595 年に造られた初代大仏、2 代目大仏と災害等で失われ 1667 年に 3 代目として造られた。奈良の大仏より 3m 高く、大仏殿は棟高 49m というものであったという。1798 年雷による

火災で焼失した。

この舟木本は上杉本と比較し街路、広場等に市民の生活の姿が大きく詳細に描かれており当時の京を知ることのできる屏風であるが残念ながら厠の香は聞こえてこない。



図 4. 舟木本 洛中市街の様子が描かれている



図 5. 人物にはこのころより来日が見られた外国人も描かれている



図 4. 門前で開かれる市も描かれている



図7. 歴博甲本洛中洛外図屏風左隻部分 白枠内に 厩 描かれる

切手になっていない歴博甲本の洛中洛外図屏風は描かれている建物、人物は少ないようであるが幸いにもほのかに香を聞くことができた。国立歴史民俗博物館のサイトの素晴らしいプレゼント機能に助けられて厩の存在を確認できた。GoogleMapのZoom機能と同等のことが高精細画像の図7の画面に対してできるので丁寧に屏風を探索できる。4扇中央部民家中庭を大きくすると厩らしきものを見つけた(図8)。更に拡大すると右側は井戸、左の塀に接して造られたものが厩と判明(図9)。更に見ると、床が高く、全面屏を持ち、入口に向き用を済ませる木製であろう金隠しを持つ厩がはっきり描かれている(図10)。この厩の造り、明治時代まで関西地方に見られた惣雪隠(関西の共同便所・図11)の造りそのままであり、豊かで清潔な排泄環境が16世紀初頭に存在していたことが知れる。



図9. 右中庭に井戸、左中庭に厩

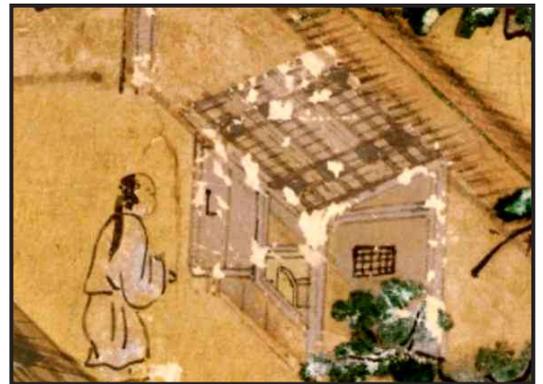


図10. 塀に接して造られた厩



図8. 民家中庭に2つの構造物

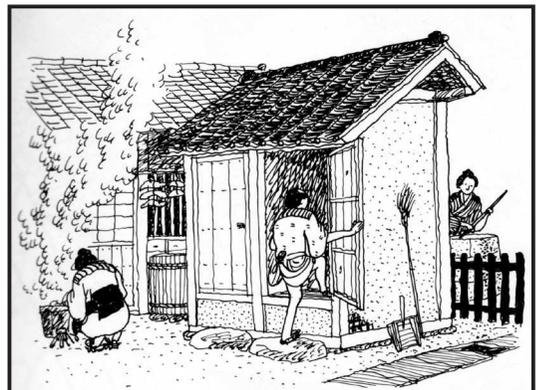


図11. 塀に接して造られた厩



図 12. 江戸庶民の共同便所惣後架 入口の戸は腰の高さまで、しかも床は高さが無い。(江戸深川資料館)

この屏風を下記サイトで拡大、移動し、16 世紀の京都の人々の生活を知っていただきたい。

https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_l.html

ダウ船 (dhow)

海のシルクロードのラクダともいえるのがダウ船である。なぜダウ船が廁 DATABASE に記録されているかということその廁が船体から目立っているからである。また、切手は帆船切手は多く発行されてるがダウ船と特定すること難しいので畑賢二著「船の切手」を参考にすると、中東諸国から発行されている。このダウ船、今でも現役で活躍中である。切手の中の船に廁を見つけることはできないので画像を探した。船尾の左右外側に人が入れ



1972 年
イエーメン

1964 年
クウェート

更に、この廁は床の構造、プライバシー保護の点から江戸時代から明治にかけて江戸で惣後架（共同便所・図 12）と呼ばれたものよりはるかに使用勝手の良いと考えられる。

この屏風を下記



図 13,14 船尾に吊るされたトイレ

甲板からこのトイレに側壁をまたいで入り、備え付きの綱つきのバケツを海面に落とし、新鮮な海水をくみ上げる。使用後は海水で事後処理をしてバケツを空にする。ムスリムの船員だから左手を洗浄するのであろう (図 15, 16)。規模は違うが 1 種の空中トイレである。



図 15, 16 手摺を手にトイレに入る。海に投げ入れたバケツを引き上げる。上は空、下は海面、視界はオーシャンブルー、心身共にすっきりであろう。

小川義博

ダウ船 紅海、アラビア海、インド洋で活躍したアラビア商人が使っていた大型の木造帆船。大きな三角帆が特徴でインド洋の季節風を利用し、広範囲な海上活動を行った。外板を固定するための釘を一切使わず紐やタールで組み立てることが特徴

早稲田大学歴史館企画展

～フクちゃん「ワセダイガクノ巻」～

早稲田大学歴史館では早稲田にちなんださまざまな企画展示が行われていますが、現在は、漫画家・横山隆一さん（1909年～2001年）がかつて朝日新聞・毎日新聞に連載した4コマ漫画の主人公・フクちゃんにちなんだ企画展が行われています。フクちゃんがかぶっている学帽が早稲田大学の角帽に似ていたことから、フクちゃんは早稲田のマスコットとして早慶戦の応援に使われてきました。また、フクちゃんは、作者自身から「早

稲田の杜だけは著作権なしの治外法権」と直々にその使用が認められました。そのため早慶戦以外でも、早大のキャンパスや早稲田周辺の街中でさまざまな場面で登場し、長きにわたって学生や住民に親しまれてきました。案内のパンフレットには、早大切手研50周年記念にあたり描かれたフクちゃんも登場しています。会期は10月1日(日)までですので、総会時には終わっていますが、タイミングを見て参観されてはいかがでしょうか。

早稲田大学歴史館企画展
フクちゃん
ワセダイガクノ巻
2023年
7月21日(金)
～10月1日(日)

主催 早稲田大学歴史館 開館時間 10時～17時
会場 早稲田大学歴史館 企画展示室 休館日 毎週水曜日、8月10日(水)～20日(日)、25日(土)～27日(日)、9月1日(金)～15日(金)、17日(日)～18日(月)
入場無料

早稲田大学歴史館
Waseda University History Museum

早稲田大学歴史館企画展
フクちゃん
ワセダイガクノ巻

フクちゃんは、漫画家・横山隆一（1909～2001）がかつて朝日新聞、毎日新聞に連載した4コマ漫画「フクちゃん」の主人公の真の子です。フクちゃんがかぶっている学帽が早稲田大学の角帽に似ていたことから、フクちゃんは1950年から2003年まで50年余の間、ワセダのマスコットとして、特に早慶戦などで多用され、人気を得ました。フクちゃんは、作者の横山から「早稲田の杜だけは著作権なしの治外法権」と直々にその使用が認められました。そのため早慶戦以外でも、早大のキャンパスや早稲田周辺の街中でそこかしこに登場し、長きにわたって学生や住民に親しまれてきました。本展では、早慶戦の応援に使われてきた「フクちゃん」の活躍ぶり等を関連資料や写真を交えながら紹介するとともに、早稲田大学応援部の80年余の歩みをたどります。

1950年早慶戦「フクちゃん」(50周年記念「フクちゃん」)
1959年早慶戦「フクちゃん」(50周年記念「フクちゃん」)
1999年早稲田大学切手研50周年記念「フクちゃん」
1997年早稲田大学創立50周年「早稲田大学」
1999年早稲田大学創立50周年記念「早稲田大学」
2000年早稲田大学創立50周年記念「早稲田大学」

主催 早稲田大学歴史館
会期 2023年7月21日(金)～10月1日(日)
開館時間 10時～17時
休館日 毎週水曜日、8月10日(水)～20日(日)、25日(土)～27日(日)、9月1日(金)～15日(金)、17日(日)～18日(月)
ご来館の際は、ウェブサイトなどで掲載に関する最新情報をご確認ください。

早稲田大学歴史館
Waseda University History Museum
東京都港区西早稲田5-1 早稲田大学早稲田キャンパス1号館1階
TEL: 03-6360-2891(平日09:00～17:00)
Email: wase@waseda.ac.jp
https://www.waseda.ac.jp/culture/waseda/history/waseda-history
#WASEDA_HISTORY
@waseda_uni_jp
#waseda_uni_jp

早稲田大学歴史館 100周年記念、早稲田大学 創設90周年記念「早稲田」



横山隆一さんが早大切手研 50 周年記念
のために描いたイラスト原画



横山隆一さんご夫妻(鎌倉のご自宅にて)
1999(平成 11)年 6 月 12 日撮影



早大切手研 50 周年小型印
(平成 11 年 11 月 11 日使用)

■稲門フィラテリー総会開催決定

今年もホームカミングデーに合わせて総会を開催する運びとなりました。教室は例年の建物と違って、正門を入れて右手の3号館になりますので、お間違えのないよう、お願いいたします。記念講演は、関東大震災100年を記念して鎌倉さんに登壇いただくことになりました。懇親会も例年通り、高田牧舎を予定しております。ぜひ会報同封の案内はがきにて、参加のお申し込みをお願いいたします。

日時：2023年10月22日(日)

時間：12:00～12:40 総会

13:00～14:00 講演

「関東大震災100年」鎌倉達敏

場所：3号館606教室

16:30～18:30 懇親会(高田牧舎)

■関東大震災と郵便

9月1日に日本郵趣出版から『関東大震災～郵便と資料が物語る100年前の大災害～』が発売されました。被災者の生々しい言葉が綴られた郵便物など歴史を物語る多数の貴重な資料を通して震災を語る本書は、日本郵趣協会の震災切手研究会代表でもある鎌倉会員が編集を担当されています。ぜひ手に取ってごらんください。



手に取ってごらんください。



総会会場の3号館(赤丸)

◇編集後記◇

今号が発行される9月1日からちょうど百年前、関東大震災が発生しました。昨今の異常気象もどこか地球の悲鳴のように聞こえてなりません。いつ来るかわからぬ災害には日ごろから備えておきたいものです。

今号は皆様から多数の原稿をお寄せいただき嬉しい悲鳴でした。引き続き、お気軽に、原稿や写真、早稲田に関連する情報などをお寄せください。

発行日：2023年9月1日

発行・著作：稲門フィラテリー

発行人：池澤克就

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4階

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：池澤克就 青柳次男

本会報からの無断掲載・複製は、メディアを問わず禁止します。